

② これからの庁舎のポイント

《住民と職員、**両者のための居場所**》

《庁舎を構成する**5つのキーワード**》

《連携と協働を生み出す**吹抜け**》

《**セミオープン**な居場所》

住民と職員、両者のための居場所



職員の満足 = 住民サービスの向上

近年の庁舎は**住民サービスや環境のみを優先**しがちではあるが
職員（従業員）の満足を高めなければ、
本当の住民サービスは向上しない

住民と職員、両者のための居場所

事例：ハーグ新庁舎（OMA）



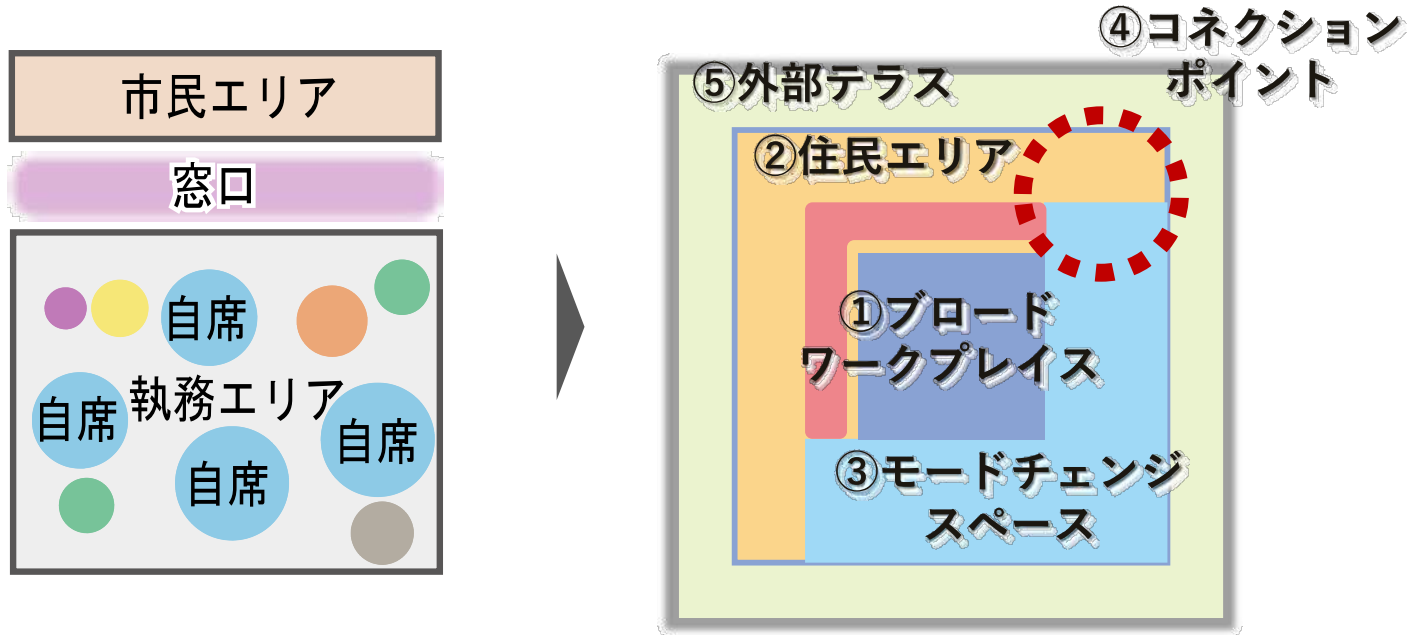
オープンプランオフィスを導入。
建物全長にわたる歩廊空間では吹抜け・街の風景を見渡すことができる
十分な余剰空間と爽快な高天井

これからの庁舎は
『いつでも どこでも だれとでも つながる』

IT技術・DXにより、どこにいてもだれとでもつながり、
住民の居場所も様々に、
職員は仕事のモードに合わせて場所を選べる。
新しい発見や出会いのある庁舎

いままでとこれからの庁舎

⇒ 住民と職員、両方にとっての居場所



<これまでの庁舎>

働く場所 = 執務エリア

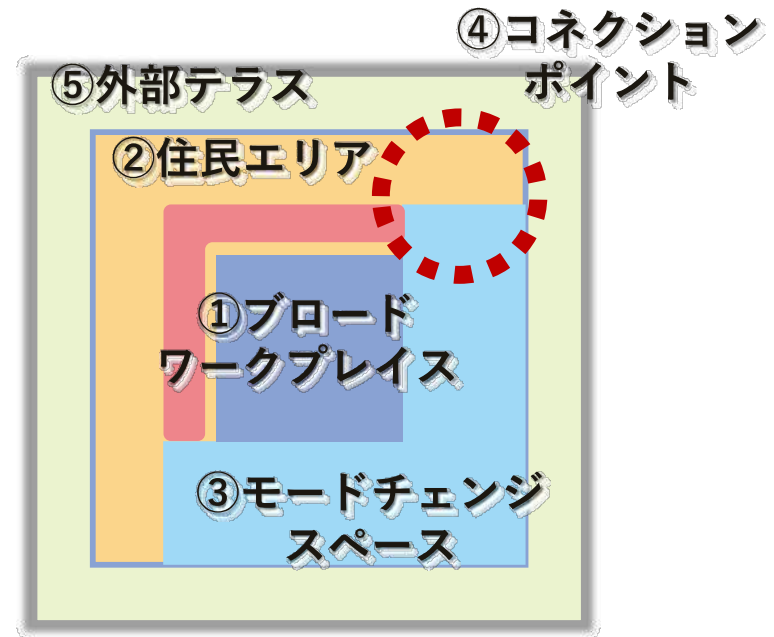
<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

DXでは置き換えられない協働・相談等コミュニケーションの場
住民と職員、両者にとっての居場所

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

- ①ブロードワークスペース
- ②住民エリア
- ③モードチェンジスペース
- ④接続ポイント
- ⑤外部テラス



<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

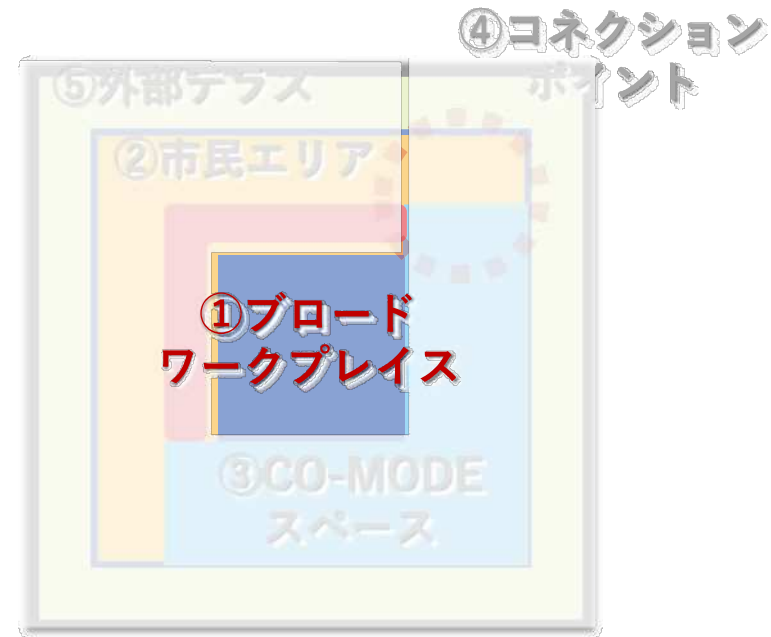
これからの庁舎は5つのエリアキーワードで構成

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

①ブロードワークプレイス



整形で大きな執務空間



<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

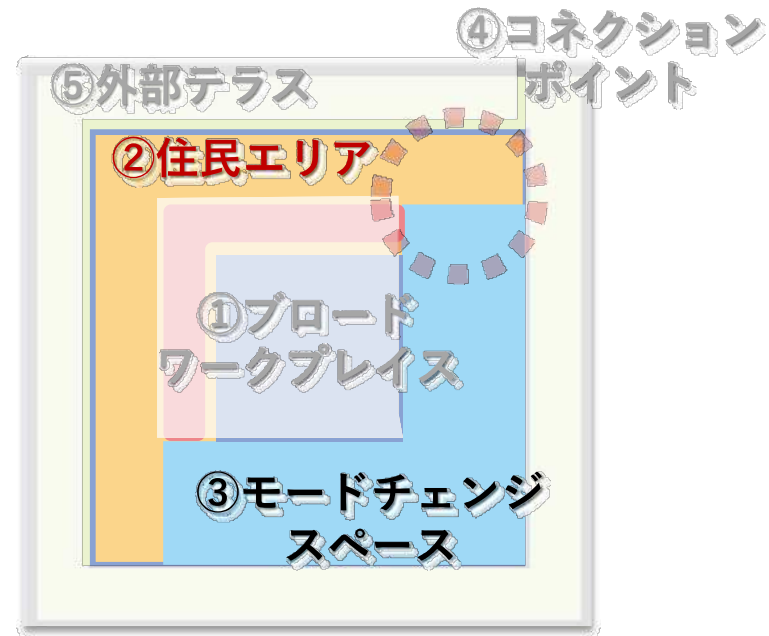
レイアウト変更や将来の機能転換にフレキシブルに
適応できる整形で大きな執務空間

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

② 住民エリア



ギャラリーや
住民活動の拠点



<新しい庁舎>

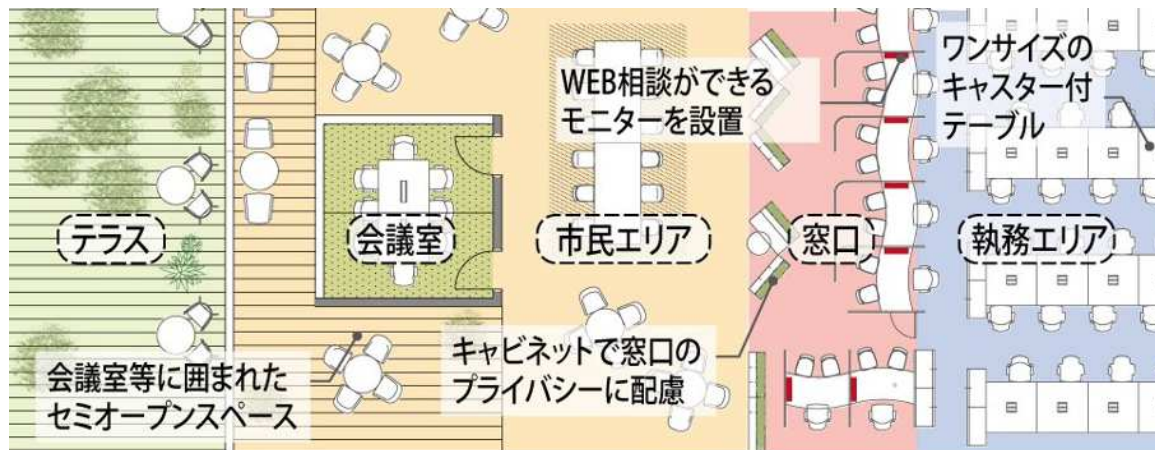
働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

外部空間やテラスとつながる
住民の待合・市民活動の場

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

② 住民エリア

〈どこでも待合システム〉



どこでも居場所	どこでも出会い	どこでも待合	どこでも窓口	どこでもワークプレイス
外部に面した心地よい居場所に市民や職員の大小様々な居場所があります。	庁舎を訪れると、人や自然、歴史と出会い、つながりが深まります。	待呼出システムにより、好きな場所で待ち時間を過ごすことができます。	リモートシステムを導入。窓口を移動せずに手続きが可能です。	可動式什器を採用し、柔軟にレイアウトを変更することができます。

どこでも待合システム

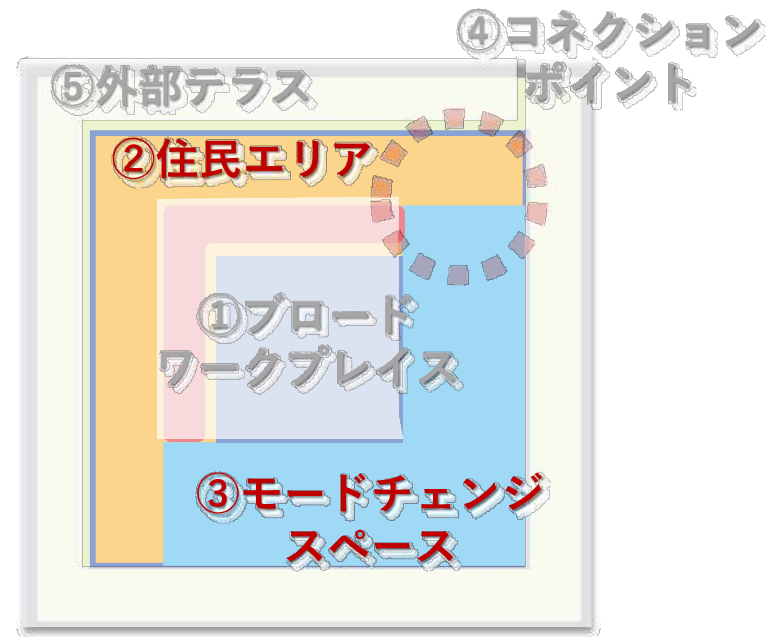
呼び出しシステム導入時にスマホで確認する機能を追加
住民は庁舎や公園のどこでも待ち時間を過ごすことができる
待合の密を回避 外部テラスを有効活用

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

③モードチェンジスペース



半外部空間



<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

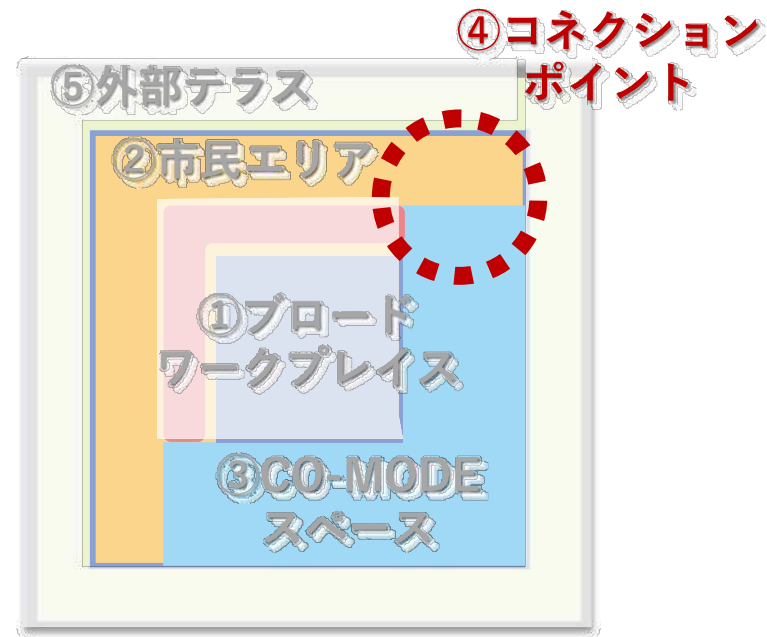
外部空間やテラスとつながる **職員のモードチェンジ** の場
市民エリアからの視界にも配慮

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

④ コネクションポイント



市民・職員の相談
協働の場



<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

住民エリアとモードチェンジスペースの接続部のスペース

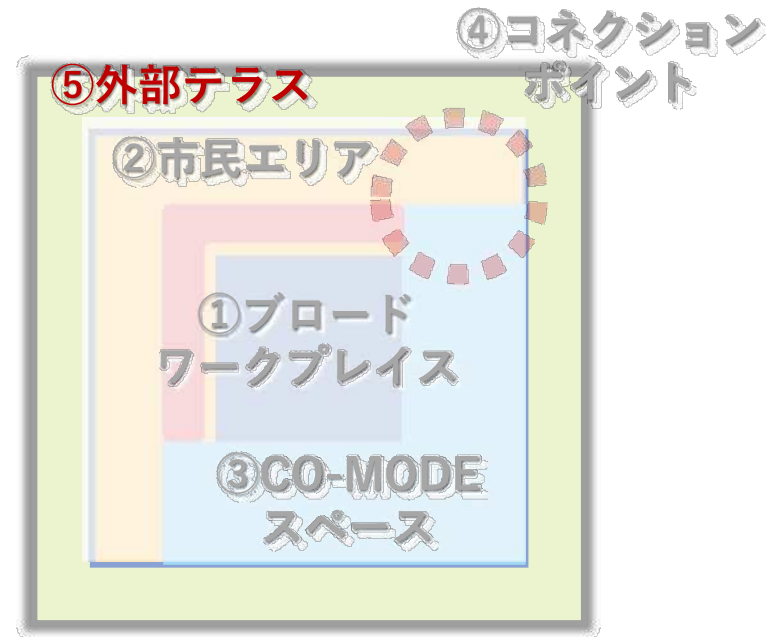
住民と職員の協働の場や窓口とは違う相談コーナー

これからの庁舎を構成する5つのキーワード

⑤外部テラス



テラス



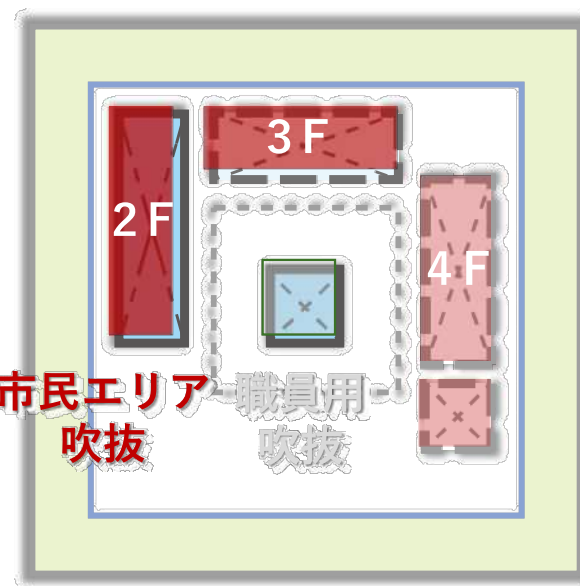
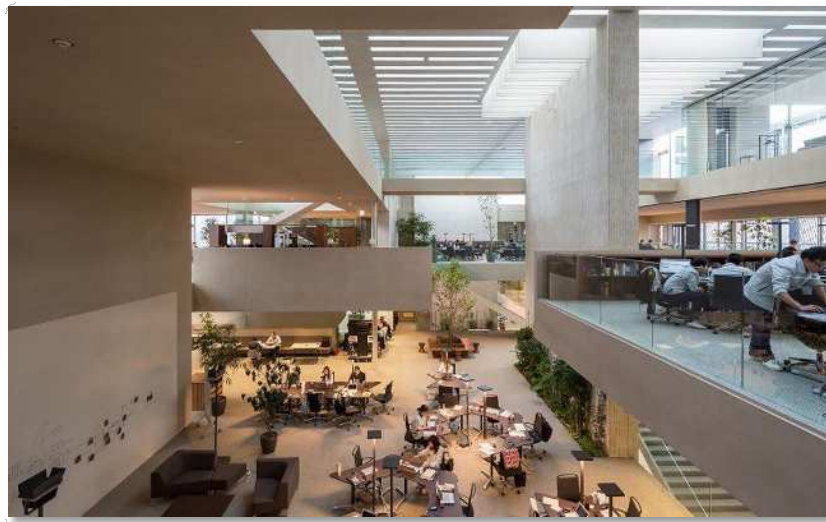
<新しい庁舎>

働く場所 = 自席 + モードチェンジスペース

自然を感じる場所
待合や仕事も可能な、庇の下の外部空間

連携と協働を生み出す吹抜

市民エリアとモードチェンジスペースに吹抜



吹抜けによって
わかりやすい空間構成

<新しい庁舎>

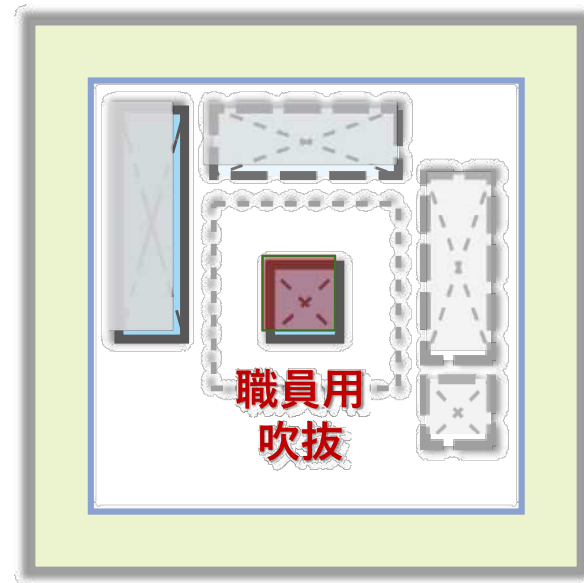
住民エリア吹抜
上下階の視認性を確保し、直感的にわかりやすい動線を実現
住民の利便性に配慮

連携と協働を生み出す吹抜

市民エリアとモードチェンジスペースに吹抜



執務エリア中央の吹抜け



<新しい庁舎>

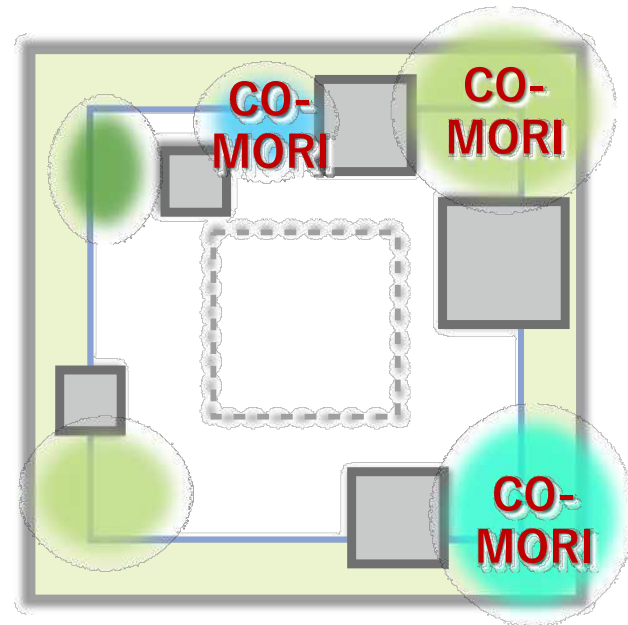
職員用吹抜
階をまたいだ連携や協働を促進
心地よい光や風が館内を巡る

セミオープンな居場所

こもりスペース 縁を深める市民のこまれる居場所



市民がこまれる居場所



<新しい庁舎>

点在する会議室等の壁を利用した**セミクローズな空間**
ふらっと立ち寄ったり、待ち時間を過ごす居場所。
住民の活動の場としても使える

まとめ

これからの庁舎は、**単なる手続きの場・業務の場から変化し、**
次のようなことが求められていく

①リアルに会うことの大切さ

⇒ **そこでしかできない共創や働き方（PBW）**を行う場

②地球と共生すること

⇒ **自然の恵み（光・風・資源）**をうまく取り入れる

企業・住民・自然みんなにとっての新しいベネフィットをつくる

③新しいシンボル性

⇒ **活動の場（ハード）・仕組み（OS）・コンテンツ（アプリ）**の提供

④職員にとって健康的で気持ちの良い場所

⇒ **職員の満足度**が高ければ、サービスが向上する

ありがとうございました